

第63回仏教保育大学講座 開催報告

保育連盟研修委員会（仏教保育大学講座指導員）



開講式

暑さ厳しい夏の京都で、令和の年になつて初の「仏教保育大学講座」が開催されました。本講座は、真宗大谷派・真宗高田派・真宗佛光寺派・真宗興正派・真宗出雲路派・浄土真宗本願寺派の真宗6派に属する保育園・幼稚園・認定こども園の保育者を対象に開講される研修であり、今年度より宿舍を「三木半旅館」に移しての開催となりました。

今年度も8月1日（木）～4日（日）の3泊4日の日程で、北は北海道、南は鹿児島から総勢91名の保育者にご参加いただきました。

講座は、西本願寺の御影堂での開講式から始まりました。汗が吹き出る暑さではありましたが、式中、本願寺派保育連盟の高輪真澄理事長が朗読した「講座開設のねがい」を聞き、本講座の核となる言葉を受講者・指導員全員で共有しました。

1日目

御影堂での開講式の後は、記念写真を撮影して、龍谷大学 清和館3階へと会場を移しました。指導員の紹介やオリエンテーションに引き続き、本願寺派指導員の高藤憲先生による「講座開設のねがい」の講義を聴きました。

その後、一部リニューアルされた龍谷大学の各教室へ移動し、12の班に分かれ、班別の座談会を行いました。座談会では、自己紹介や各園のクラスだよりの紹介・交換、班長・記録係などの役割分担を決めました。初めは緊張して、受講者同士の会話もぎこちない様子でしたが、時間が経つにつれて徐々に打ち解けあい、保育の悩みや、個人的な疑問・質問などに話は発展し、会話の内容もだんだんと深まってきました。

座談会も終わり、夕方には宿舎である三木半旅館へとバスで移動しました。到着後は全員でお勤めを行い、班ごとに食事をいただいた後、休憩をはさんで1回目の班別討議を行った。緊張の中にも充実した初日を終えました。

2日目

今年度から宿舎となった三木半旅館は京都の繁華街中心に位置します。スケジュールの都合、お昼には参拝できないこととなりましたが、各派のご本山へは研修や移動の時間を調整して参拝させていただきました。2日目の朝は真宗大谷派のご本山（東本願寺）をお参りしました。御影堂、阿弥陀堂の両堂ともに参拝し、それから研修会場の龍谷大学へバスにて移動しました。

まず初めに、龍谷大学教授の鍋島直樹先生なべしまなおきより「仏教のいのちへのまなざし金子みすゞ

『見えぬものでもあるんだよ』との講義で、

ご講義を頂戴しました。中でも、生命の尊厳を守る心^{こころ}について、「命あるものすべては、死の悲しみを包含しながら、生の輝きを放っている。生命の尊厳を守る心は、一つひとつのいのちに輝きと悲しみの両面があることを知るところに醸成される」と述べられ、金子みすゞの詩を紹介しながら、仏教のいのちのまなざしについてお話いただきました。

引き続き行われた班別討議②③では、各班とも「いのち」をテーマとして話し合いが進められたようでした。午後には、鍋島先生の講義と3回の班別討議を経て、全体会を行いました。中間報告として位置づけられた全体会では、各班より討議内容の報告や各班へ問いかけ、鍋島先生への質問などを出し合い、班別討議の内容を全体で共有しました。それにより、その直後の班別討議④の内容もより深いものになりました。

宿舎に戻り夕食をいただいたら、本講座恒例の「夜のつどい」の時間が始まります。高田派指導員の佐藤弘道先生と本願寺派指導員の堀良尚先生が、絶妙なコンビネーションで



講義① 鍋島直樹先生

盛りあげてくれました。各班の対抗で「お寺の鐘」「私のいのち」「いわしのとむらい」等、「△△の××」の枠にはまるお題による渾身のバントタイムの競演・お題当てっこ大会で楽しみました。雰囲気もすっかりなごみ、班内の一体感も一層深まったようでした。

3日目

3日目の研修は、全日程を三木半旅館にて行いました。朝食、朝のお勤めに引き続き、学校法人今小路学園くるみ幼稚園の松井乃里子先生より「まことの保育の理念に基づき、



講義② 松井乃里子先生

まことの保育者としてのあり方を共に考えよう！」という講題でご講義をいただきました。40年以上の勤務経験や、保育に携わる中で大切にしている子どもたちへの感謝の気持ちを、一同で頷きながら聞き、続く班別討議⑤にて、各々の保育を振り返りながら、討議を深めました。

昼食の後、班ごとに京都の繁華街を散策しました。1時間ではありましたが、六角堂など親鸞聖人ゆかりの地を巡った班もありました。散策から戻り、大阪教育大学講師の萬田一樹先生より讃歌指導の講義を受講しました。



讃歌指導 萬田一樹先生

笑いの絶えない講義の中にも、ブレスや強弱、歌詞の意味内容の把握といった日々の保育にすぐに活かすことのできる実践的な内容が詰まっております、楽しく歌唱練習ができました。その後、班別討議⑥を行った後、最後の夕食をいただき、班の課題やレポートを記入し、一日を終了しました。

4日目

最終日である4日目は、動行に引き続き、全体討議を行いました。全体討議では、各班が今までの討議のまとめを発表しました。各班とも、主に「いのちの大切さについて」「寄り添う保育」「子どもにとっての良い環境」「なぜ、私たちはこの仕事をしているのか?」という課題を取りあげて討議を進めたようでした。

「いのちの大切さ」では、「子どもにいのちの大切さを伝える前に、自分はいのちの大切さを実感できているか。子どもや保護者、自分を大切にできているか?」や「ありのままの姿を受け入れることの難しさ、どう向きあっていくか」という課題が挙げられました。



講義の様子

その課題は、少し視点を変えて「子どもに寄り添う保育」について話し合いを進めてきた班より「子ども一人ひとりを大切にすること、個性を大切にするにはどうすればいいのか?」「子どもを導くのではなく、互いに育ちあい学びあう関係であり、支えあう関係であることが大切なのではないか?」という意見を聞くことで、話し合いがさらに深まってきました。さらには、人的環境である保育者としての自分について話し合った班の課題を聞くことで、「保育者としての自己を振り

返る」話し合いへと発展しました。

時に「講座開設のねがい」に立ち返り、気になる子どもたちの援助や保護者対応、先輩保育者との連携など日々の悩みに向き合う中で、「悩んだり迷ったりしながら、子どもから学んでいく姿勢を忘れず、常に自己を振り返ることの大切さ」について話が深まってきた、全体討議を終了しました。その後、最後の班別討議を行い、引き続き閉講式を迎え、受講者全員に修了証が手渡されました。

閉講式の中では、真宗大谷派 善児園の田村成喜先生より、受講者を代表して謝辞をいただきました。

受講者代表謝辞

ぼくは、この研修を通してたくさんの方を学びました。初め、班に分かれた時は、まさか男一人だと思わず、緊張が走りました。初めは会話も少なく、気難しい空気が漂っていました。けれど、日々一緒に過ごしていく中で自分の意見を少しずつ言えたり、困ったときは助け合うなどし、少しずつ関係も深まってきました。



閉講式 修了証授与

あらためて、人と人の関わりについて考え直すことができました。「いのち」のことについては、普段、考えることはありませんでした。「いのち」のことについて考えていくと、人それぞれ思うことはまったく違い、たくさん意見がありました。

この研修で考えたこと、学んだことを、保育現場や日々の生活に活かしていきたいです。

受講者代表 善児園 田村成喜